倭の五王クイズ

史跡公園キャラクター 大安場くん

問1 倭の五王が使者を派遣したのはどこの国か？

問2 郡山市大槻町（おおつきまち）にある古墳時代中期の代表的な集落は？

問3 郡山で最初につくられた前方後円墳（ぜんぽうこうえんふん）は？

問4 最北の前方後円墳である角塚（つのづか）古墳は何県にある？

問5 鉄の素材から製品をつくる作業のことをなんという？

回答欄				
問1	問2	問3	問4	問5

答えが書けたら、受付までお持ち下さい。
参加賞をプレゼントします。※

※無くなり次第終了となります。

主要展示品一覧

展示品名	所蔵者
南山田遺跡24号竪穴住居竈	郡山市
清水内遺跡6区5号・45号竪穴住居ほか出土土師器	郡山市
南山田遺跡2号・13号竪穴住居ほか出土土師器	郡山市
北山田2号墳出土土師器	郡山市
北山田13号墳出土鉄剣	郡山市
阿弥陀壇1号墳出土土師器	郡山市
大善寺2号墳出土円筒埴輪	郡山市
天王壇古墳出土円筒埴輪	本宮市立歴史民俗資料館
国見八幡塚古墳(塚野目1号墳)出土円筒埴輪	国見町教育委員会
建鉾山遺跡出土石製模造品	白河市教育委員会
塚野目11号墳出土石製模造品	国見町教育委員会
正直27号墳出土石製模造品	郡山市
正直30号墳出土石製模造品	郡山市
中半入遺跡出土須恵器	奥州市教育委員会
南山田遺跡出土小型把手付壺	郡山市
清水内遺跡5区5号竪穴住居出土紡錘車	郡山市
清水内遺跡6区33号竪穴住居出土紡錘車	郡山市
清水内遺跡9区19号竪穴住居出土土師器転用羽口	郡山市

企画展記念講演会

講師：森公章氏（東洋大学文学部教授）
演題：倭の五王の時代
日時：平成30年7月8日（日）13:30～15:00

例　言

○本書は、大安場史跡公園平成30年度第1回企画展のパンフレットです。
○下記の機関・個人から協力をいただきました。
岩手県文化振興事業団 堀蔵文化財センター／岩手県立博物館／岩波書店／奥州市教育委員会／国見町教育委員会／白河市教育委員会／福島県教育委員会／本宮市立歴史民俗資料館／有斐閣／石原道明／佐久間正明（順不同・敬称略）
○企画展の実施と本書の作成は、垣内和孝が担当しました。

編集・発行

大安場史跡公園
（公益財団法人郡山市文化・学び振興公社）
〒963-1161
福島県郡山市田村町大善寺字大安場160
TEL:024-965-1088

発行日

平成30年7月7日

参考文献：科学研究費補助金研究成果報告書『阿武隈川流域における古墳時代首長層の動向把握のための基礎的研究』（福島大学行政政策学類）、季刊考古学別冊22『中期古墳とその時代』（雄山閣）、郡山市史編さん委員会編『郡山の歴史』、福島県立博物館図録『東国のはにわ』、笹生衛『神と死者の考古学』（吉川弘文館）、潮見浩『図解 技術の考古学』（有斐閣）、森公章『倭の五王』（山川出版社）ほか。
表紙背景：「宋書倭国伝」（石原道博編訳『魏志倭人伝・後漢書倭伝・宋書倭国伝・隋書倭国伝』岩波文庫）。

ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C016975
この印刷物は、FSC®認証紙と環境にやさしい植物油インキを使用しています。紙へリサイクル可。
VEGETABLE OIL INK

大安場史跡公園

平成30年度 第1回企画展

倭の五王の時代の郡山

2018 7.7土▸8.26日

9:00～17:00（入館は16:30まで）
休館日／平成30年7月9日（月）・7月17日（火）

朝鮮半島産の可能性がある壺（南山田遺跡）

「宋書」にみる倭の五王の略系図

注）倭の五王を、歴代の天皇の誰に比定するかについては諸説があり、定まっていません。

約400年間続いた古墳時代のうち、4世紀末から5世紀が中期です。この時代は、後に倭（わ）の五王（ごおう）※と呼ばれることになる大王（だいおう）が活躍し、中国大陸や朝鮮半島との交流が盛んでした。倭の五王の1人である倭王武（わおうぶ）（雄略天皇（ゆうりゃく））が、中国の王朝に出した上表文（じょうひょうぶん）は、よく知られています。奈良県や大阪府には、倭王武をはじめとする大王の巨大な古墳が造られ、北端と南端を除く列島に、古墳文化が広がりました。

一方で古墳時代の中期は、変革の時代でもありました。そこで今回の企画展では、倭の五王の時代における古墳文化の波及と変革の様相を、出土遺物が豊富な郡山市を中心に、住居・土器・集落・古墳・埴輪（はにわ）・祭祀（さいし）・交流という7つの視点から紹介します。

※「倭」とは北端と南端を除く日本列島に形成された政治勢力で、「五王」はその政治勢力の5人の歴代の王のことです。

主催：郡山市・郡山市教育委員会・大安場史跡公園（公益財団法人郡山市文化・学び振興公社）

住居　炉から竈へ

古墳時代の人々は、四角く地面を掘り窪めて床とし、そこに柱を立てて屋根をかけた構造の竪穴住居に暮らしていました。古墳時代中期の前半までは、床には炉が作られていて、調理をしたり、暖や明かりをとったりするのに使っていました。

ところが中期の後半になると、竪穴住居の壁に、竈を作り付けるようになります。竈には、鍋として使われた土器が据え付けられていました。その鍋の上には、蒸し器として使われた土器をのせ、食べ物を調理しました。壁に作り付けられた竈は動かすことができず、立体的で大きな構造物です。竪穴住居の中での生活のスタイルは、大きく変化したと予想できます。

出現期の竈（南山田遺跡24号竪穴住居）

土器が出土した様子（左：清水内遺跡 右：南山田遺跡）

古墳時代中期前半の土器

（清水内遺跡6区45号竪穴住居）

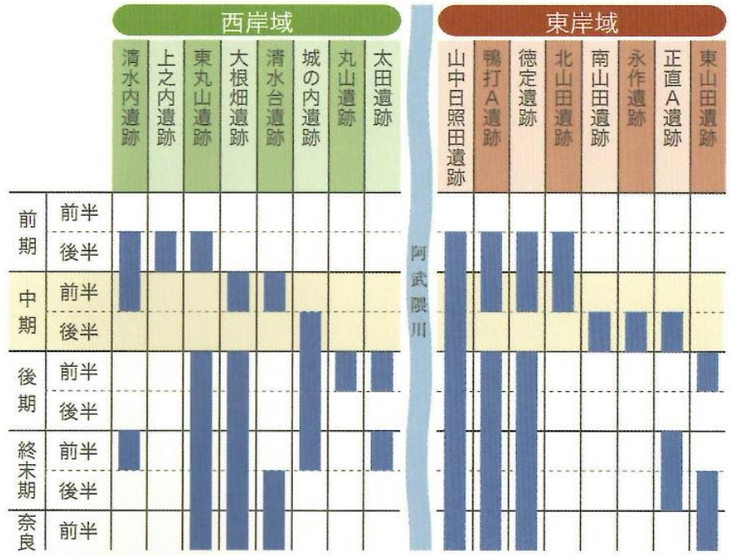
古墳時代中期後半の土器

（南山田遺跡13号竪穴住居）

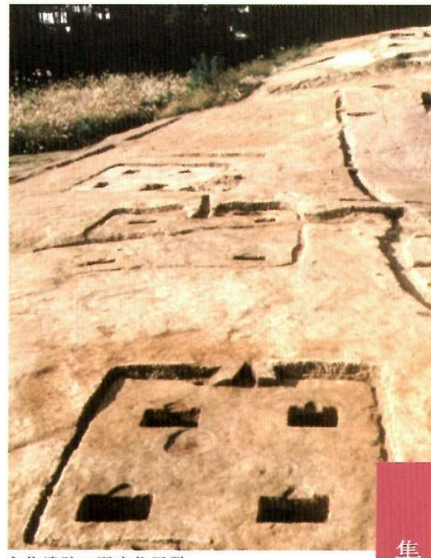
土器　食器の変化

竪穴住居の壁に竈が作り付けられるようになるのと同じ古墳時代中期の中頃に、食器が変化しました。それ以前の中期の前半までの食器は、食べ物を盛る部分に脚が付いた高坏と呼ばれる土器が中心でした。食べ物を盛った高坏を取り囲むようにして、人々は食事をしていたのではないかと考えられています。

ところが、古墳時代中期の後半になると、高坏の数が少なくなります。脚の付かない坏や椀と呼ばれる土器が、一般的となるのです。いまの私たちと同じように、各人が坏や椀を手に持ち、食事をするようになったと考えられています。また、鍋として使われた土器の形が、竈に据え付けやすいように、胴の部分が縦長になりはじめました。



主な古墳時代集落の変遷



永作遺跡の竪穴住居群

集落　集住と断絶

古墳時代の集落は、竪穴住居の集合した姿となるのが普通です。郡山市の周辺では、古墳時代中期の集落の特徴として、大規模な集落の出現が上げられます。規模が大きいというのは、集落を構成する竪穴住居の数が多い、ということです。特徴の2つめとして、竪穴住居の規模の違いが、顕著になることがあります。規模の大小は、住人の数や身分を反映すると考えられます。

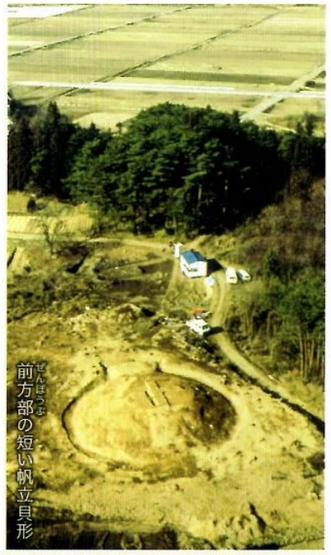
また、竈の出現や食器の変化と同じ頃に、集落の多くが断絶します。中期前半の集落は後半に続かず、後半には別の場所で集落がつくられました。その後半の集落も、次の後期には続きません。中期後半の集落は、前後の時代との継続性の低さが特徴です。

発掘調査中の南山田遺跡

郡山市を代表する古墳時代中期の集落＝村の遺跡に、大槻町の清水内遺跡と田村町の南山田遺跡・永作遺跡があります。このうち南山田遺跡と永作遺跡は、別の名前が付いていますが1つの村です。当時の村は、大小さまざまの竪穴住居＝家が集まってできていました。写真にみえる四角が1棟の竪穴住居です。

発掘調査中の清水内遺跡

主な古墳の変遷


前方部の短い帆立貝形

古墳　低調と隆盛

古墳時代中期に政治的な中心であった奈良県や大阪府では、巨大な規模の古墳が数多く造られました。一方で地方に築かれた古墳は、例外的な地域を除けば小規模になります。ヤマト※政権やヤマト王権と呼ばれる政治勢力の基盤が、強固になった結果と考えられます。倭の五王の活躍は、その表れの1つです。

古墳時代中期の前半に造られた古墳は、郡山市の周辺では数が非常に限られています。古墳時代前期の後半に、大規模な前方後方墳である大安場古墳を築いた田村町ですら、例外ではありません。その一方で中期の後半になると、古墳の数は一転して増加します。ただし、造られた古墳の規模は、その多くが小さなものでした。

※「ヤマト」は倭・大和と表記することもあります。

木棺直葬の主体部

郡山で最初の前方後円墳（北山田2号墳）

周溝は一ヶ所途切れていた

箱形石棺の主体部

前期の大安場古墳に隣接する中期古墳（大安場2号墳）

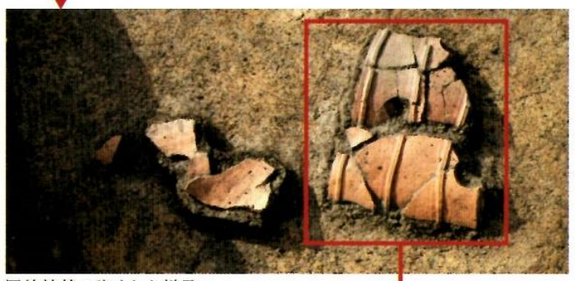
埴輪　工人の移動

古墳の数が増加する古墳時代中期の中頃には、郡山市周辺の古墳でも、埴輪が立て並べられるようになります。埴輪というと、人物や動物などをかたどった形象埴輪を思い浮かべがちですが、まるい筒状の形をした円筒埴輪は、地味な存在ながら、多くのことを教えてくれます。

円筒埴輪には同じ特徴を持つものがあり、それらは同一の工人が作ったと考えられています。福島県中通り地方には、同じ特徴を持つ円筒埴輪が、南北に分布しています。南北方向の交流が、盛んに行なわれていた証しです。南北の交通路は、北関東などを経て、古墳時代中期の政治的な中心であるヤマトにつながっていました。

円筒埴輪には、リング状に貼り付けられたでっぱりが2～5ヶ所ほどあります。中通り地方には、このでっぱりが最上部付近につく円筒埴輪が分布しています。今回の企画展では、伊達郡国見町の国見八幡塚古墳（塚野目1号墳）、本宮市の天王壇古墳、郡山市の大善寺2号墳から出土した円筒埴輪を展示しました。これらの円筒埴輪は、同じ技術を持つ工人が制作したと考えられます。

大善寺2号墳の現況


円筒埴輪の出土した様子

天王壇古墳の円筒埴輪

国見八幡塚古墳の円筒埴輪（塚野目1号墳）

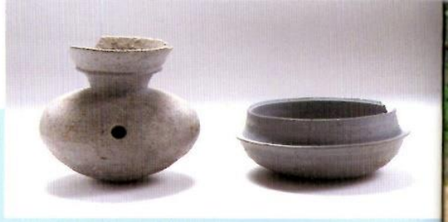
大善寺2号墳の円筒埴輪

祭祀 神々と祖先

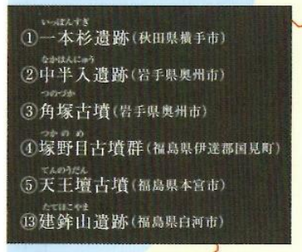
古墳時代の中期を特徴付ける遺物の1つに、石製模造品があります。その名が示すように、鏡や剣・小刀などを模して、滑石という軟らかな石材で作られた小型の製品です。ほとんどは実用品ではありません。神々や祖先をまつる祭祀、死者の埋葬などに際して使われました。特徴的な石製模造品の中には、円筒埴輪と同じく、福島県中通り地方を南北に分布しているものがあります。

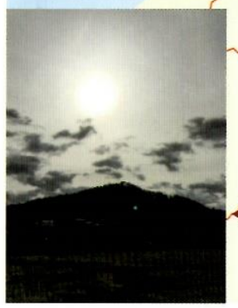
大槻町の清水内遺跡からは、溝と塀で区画された祭祀のための空間がみつかっています。小河川が区画の一辺となっており、そこでは水に関する祭祀が行なわれていたようです。古墳時代の中期は、祭祀の方法が整った時代と考えられています。

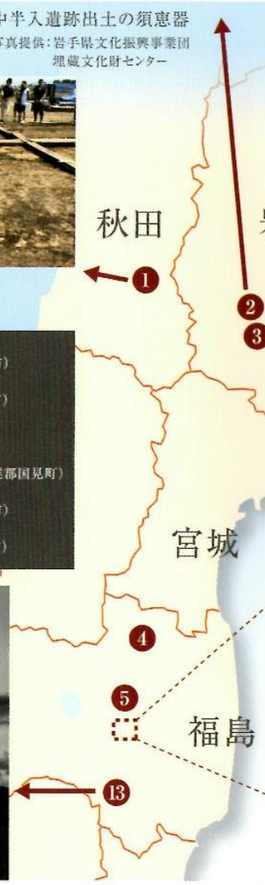
溝と塀で区画された祭祀の空間（清水内遺跡）


中半入遺跡出土の須恵器
写真提供：岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

一本杉遺跡の現地説明会

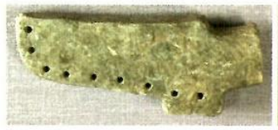



東北南部で最古の祭祀遺跡（建鉾山遺跡）



展示遺跡の位置（東北地方）

小刀を模した「刀子形」と分類される石製模造品のなかに、小さな穴を列状に並べたものがあります。この特徴的な列点は、革製の鞘の縫い目を表現したのではないかと考えられます。今回の企画展では、白河市の建鉾山遺跡からの出土品と、本宮市の天王壇古墳採集品の写真を展示しました。同じ特徴を持つ石製模造品の分布は、有力者の結び付きを反映しています。


建鉾山遺跡出土品

天王壇古墳採集品 写真提供：佐久間正明

最北の前方後円墳である角塚古墳 写真提供：奥州市教育委員会

展示遺跡の位置（郡山市）

織維の束に撚りをかけることによって、糸はできています。織維の束を棒の先端にひっかけ、その棒を回転させて撚りをかけ、できた糸を棒に巻き付けます。この作業を繰り返し、糸を長くします。展示したのは、回転力を強くするために、棒に付けた重りです。一般的な重りは断面が台形など、朝鮮半島に由来する重りは算盤玉のような形をしています。

一般的な形の重りと朝鮮半島系の重り（清水内遺跡）

交流 列島と半島

ヤマトの影響力は、列島の広い範囲に及びました。ヤマトから遠く離れた秋田県や岩手県でも、古墳時代中期の遺跡がみつかっています。倭の五王は、朝鮮半島での影響力を確かなものとするため、中国の王朝に使者を派遣しました。半島に由来する文物が、列島の各地で認められるのは、そのことと無関係ではありません。須恵器と呼ばれる灰色で硬い焼き物や、鉄を鍛えるための鍛冶の技術、竪穴住居の竈などがその代表例です。

半島で使われていたような算盤玉の形の糸作りの重りや、半島で生産された可能性のある焼き物が、郡山市の遺跡から出土しています。半島とのつながりは、私たちが想像する以上に強かったのかもしれません。

高坏の脚を転用した送風管（清水内遺跡）

鉄素材を加工して製品を作る作業のことを、鍛冶といいます。その過程で、鉄の素材を高熱にする必要があるため、専用の炉が作られました。炉には大量の空気（酸素）を送り込み、火の燃焼を促進しました。展示したのは、炉へ空気を送り込む管の一部です。溶けた鉄のカスが付着しているのがわかります。鍛冶は、当時の先端技術の1つでした。